製鐵所の大罷業は何故起つたか

折重なる内部の宿弊

驚く可し三十六時間ブッ通しの勞働を一ケ月に八九回反覆—彼等は斯くしなければ食ふ事ができぬ—名づけて殘業と云ふ

八幡製鐵所職工の罷工と怠業は頗る根強い。官憲が目して以て罷工の劇増である。之等を通算して一日平均二圓内外の給料となり、月に殘つて相當の收入とは思はれるが加給と云ひ劇増と云い、之等は勞働者の慾望を挑發する事を目的とした制度であつて

實際に積つて見る時は頗る

飽つ氣なき目標である。物價の高い八幡に於て

時間の勞働に堪へねばならぬ。

自ら進んで工場に働く時間は今日の午前七時から翌日の午後六時

に依るかの遣り繰り手段に訴へね

加給と劇増とは全く當に書いた餅

と同樣である。故に算盤の上で七十圓八十圓となる職工も、事實の上では四十五圓乃至六十圓といふ

の後職工は

技術も能率も業も

ない

◇長官の顔

ない

丈

深く煙を避けて姿を見せない故

に

國家が如何に久しく大根

は

は

**は